

検証まとめ

(地域コミュニティ施設に係る作業部会)

地域コミュニティ施設について

ア これまでの再編の取組

① コミュニティふらっとの整備について

新たな地域コミュニティ施設である「コミュニティふらっと」は、これまで以下のような考え方に基づき整備を進めてきた。

(1) 経緯

区民集会所、区民会館、及び60歳以上の高齢者の専用施設であるゆうゆう館は、これまで区民相互の交流や趣味の活動など、様々なコミュニティ活動の場として活用されてきた。しかし、これらの施設は、施設によって、また部屋の種類や時間帯によって稼働率にばらつきが見られ、その結果、施設の平均利用率は約50%にとどまっている状況である。

また、近年、地域社会との関係が希薄となり、「社会的孤立」が問題となる中、世代を超えた地域住民同士のつながりや支えあいが強く求められている。

こうした課題に的確に対応していくため、区民集会所、区民会館、現在は特定の年齢層を対象にした施設であるゆうゆう館、機能移転後の児童館施設を対象に、新たな地域コミュニティ施設である「コミュニティふらっと」へと再編整備することで、施設の有効活用を図るとともに、乳幼児親子を含む子どもから高齢者まで、誰もが身近な地域で気軽に利用でき、世代を超えて交流・つながりが生まれる施設としていくこととした。

(2) 施設の規模

地域コミュニティ施設の規模としては、再編整備の対象となる施設を集約することを踏まえ、延床面積500～800㎡程度を基本とした。なお、実際の施設整備に当たっては、これまで区民集会所やゆうゆう館などで活動してきた団体等が必要とする活動場所の確保をはじめ、既存施設の状況や地域特性、行政需要などの点を考慮して適切な施設規模となるようにしていくこととした。

(3) 施設の配置

誰もが身近な地域で気軽に集える施設となるよう、歩いて行くことができる範囲に1か所を目安に整備し、具体的な配置については、道路や河川の状況など生活圏を考慮しながら、最終的には区内全体で30～40施設程度整備することを想定していた。

② 施設の位置づけについて

「杉並区立コミュニティふらっと条例」第1条において、「子どもから高齢者までの全ての世代の交流及び活動の場を提供し、並びに多世代の交流に関する事業を実施することにより、身近な地域におけるコミュニティの形成に資する」ことを目的として、コミュニティふらっとを設置することとしている。

③ コミュニティふらっとの運用について

コミュニティふらっとの設置目的を達成するため、同じ集会施設である区民集会所や区民会館と異なる、以下のような運用を行っている。

- (1) 簡易な打合せのほか、読書や勉強、飲食しながらのおしゃべりなど、様々な用途に活用できるラウンジを設置し、誰もが気軽に立ち寄り、交流できる場を提供している。
- (2) コミュニティふらっとの受付案内等業務の受託事業者選定に当たっては、公募型プロポーザル方式を採用し、ゆうゆう館の機能継承を図る等の観点から、自主運営事業等に係る提案も評価の対象としている。結果として、開設済みのコミュニティふらっと5施設のうち3施設は、ゆうゆう館を運営している事業者が受託している。
- (3) 全館型の「多世代交流イベント」（まつり）を開催している。イベントの中では、地域のボランティアが子どもにコマなどの遊び方を教える、子どもから高齢者までが1つの円になり一緒に踊る、当該コミュニティふらっとで活動している高齢者団体の活動を地域の方に発表する場を設けるなど、多世代の交流につながるような取組を実施している。
- (4) 講座、サロン等の「自主運営事業」を実施している。例えば、乳幼児親子間の交流のための事業や、高齢者向けの健康づくりの講座などのほか、共通の趣味を通して様々な世代の方が交流できるような講座も開催している。
- (5) 一部の部屋・時間帯に「高齢者団体優先枠」を設け、一般利用者に先駆けて予約を受け付けるとともに、1団体あたり月に8枠までは使用料を免除することにより、ゆうゆう館における高齢者の活動が継続できるようにしている。
- (6) 施設独自の取組も行っている。例えば、コミュニティふらっと東原では、「乳幼児親子の居場所」として活用できるよう、乳幼児室を設置している。また、コミュニティふらっと永福では、「中・高校生の居場所」として活用できるよう、ラウンジや多目的室、楽器練習室の一部の時間帯を、中・高校生向けに開放する「ティーンズタイム」と呼ばれる取組を実施している。

【コミュニティふらっとのイメージ】



④ これまでに開設したコミュニティふらっと及び運営状況について

○開設済みのコミュニティふらっと一覧

施設名	開設年月	設備（部屋数）	備考
コミュニティふらっと阿佐谷	令和3年 1月	集会室5、和室1	・ゆうゆう阿佐谷館を転用 ・ゆうゆう阿佐谷館を機能継承
コミュニティふらっと東原	令和3年 1月	集会室4、多目的室1、 乳幼児室1	・東原児童館を転用 ・ゆうゆう阿佐谷北館を機能継承
コミュニティふらっと馬橋	令和3年 1月	集会室3、多目的室1	・馬橋区民集会所、ゆうゆう馬橋館を転用 ・馬橋区民集会所、ゆうゆう馬橋館を機能継承
コミュニティふらっと永福	令和3年 4月	集会室4、多目的室1、 楽器練習室1	・永福図書館と複合
コミュニティふらっと成田	令和4年 4月	集会室3、多目的室1	・ゆうゆう浜田山館を機能継承 ・成田保育園を併設

○コミュニティふらっとの運営状況等（5施設合計）

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	合計
利用率 (利用枠数/利用可能枠数)		44.9% (1,763/3,930)	58.8% (16,496/28,038)	56.7% (20,385/35,957)	—
多世代 交流 イベント	開催回数	3回	5回	10回	18回
	参加者数(※)	670人	6,700人	8,100人	15,470人
自主運営 事業	開催回数	18回	875回	1,451回	2,344回
	参加者数	159人	8,862人	15,430人	24,451人

※人数は概数。コミュニティふらっと永福は、複合している永福図書館の来館者数を含む。

⑤ これまでの整備に関する進め方について

○コミュニティふらっとの整備に当たっては、区立施設再編整備計画を策定する際のパブリックコメントで意見を聴いてきた。また、一部の施設（コミュニティふらっと東原）においては、設計の段階で意見聴取を行うなど取り組んできたが、これまでの進め方について改めて検証する。

イ 検証の視点

これまでのコミュニティふらっとの整備について検証するため、以下の検証項目及び視点を設定した。

検証項目	視点	目的
1 コミュニティふらっとの設置目的について	1 全ての世代の利用について	条例の規定を踏まえ、子どもから高齢者までの全ての世代の利用が進んでいるか検証する
	2 多世代の交流について	条例の規定を踏まえ、多世代の交流が進んでいるか検証する
	3 施設の特徴などを踏まえた運営上の創意工夫について	「身近な地域におけるコミュニティ形成に資する」というコミュニティふらっとの設置目的を実現するために、どのような創意工夫がされているか検証する
	4 コミュニティふらっとの設置目的の理解等について	コミュニティふらっとの設置目的について、どのように理解されているか等を検証する
2 施設の有効活用について	1 施設の有効活用について	コミュニティふらっとへ転用した施設において、施設が有効活用されているか検証する
3 地域コミュニティ施設の再編について	1 地域コミュニティ施設の再編に対する理解について	地域コミュニティ施設の再編について、どのように理解されているか検証する
	2 これまでの進め方について	これまで進めてきた地域コミュニティ施設の再編の進め方について検証する

また、これらの検証を行うに当たり、以下の通りアンケートや意見交換会を実施した。

○アンケート

- ・コミュニティふらっと利用者アンケート
- ・講座等参加者アンケート
- ・イベント参加者アンケート
- ・集会施設利用者アンケート

○意見交換会

- ・コミュニティふらっと運営事業者意見交換会
- ・コミュニティふらっと利用者意見交換会
- ・再編整備を一旦休止した集会施設（浜田山会館）利用者意見交換会

ウ 情報の整理・分析

前項で掲げた7つの視点について、以下のとおり情報の整理・分析を行った。

検証項目1 コミュニティふらっとの設置目的について

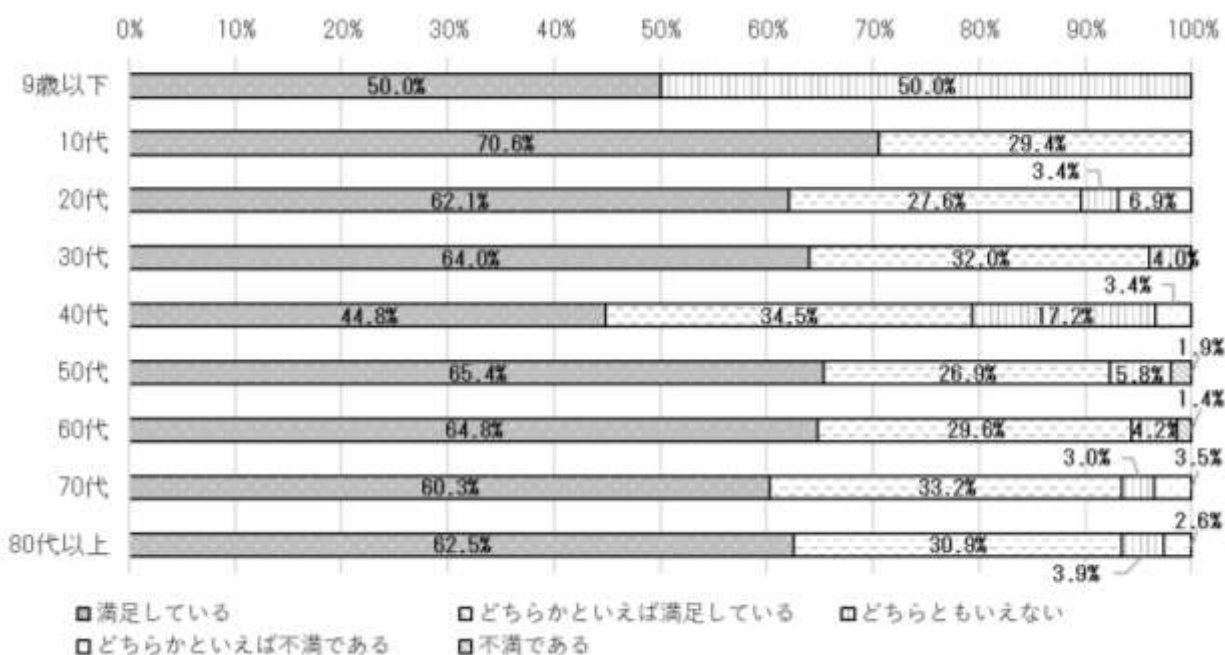
視点1 全ての世代の利用について

① アンケートから

- コミュニティふらっと利用者アンケート、講座等参加者アンケート及びイベント参加者アンケートの回答者の年齢をみると、コミュニティふらっと利用者は60代以上の割合が74.4%であった。一方、講座等参加者は60代以上の割合が53.7%（50代以下の割合が46.3%）、イベント参加者は50代以下の割合が82.5%と、施設を利用する場面により年齢に差異があった。
- コミュニティふらっと利用者アンケートにおいて、「どの世代でも利用しやすい」という点について「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」との回答を合わせた割合は、81.1%であった。
- コミュニティふらっと利用者アンケート、講座等参加者アンケート及びイベント参加者アンケートにおける世代ごとの満足度を見ると、いずれの世代も概ね8割以上であった。

・コミュニティふらっと利用者アンケート

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である	無回答等	合計
9歳以下	1	0	1	0	0	0	2
10代	12	5	0	0	0	0	17
20代	18	8	1	2	0	1	30
30代	16	8	1	0	0	0	25
40代	13	10	5	1	0	2	31
50代	34	14	3	0	1	0	52
60代	46	21	3	0	1	3	74
70代	120	66	6	7	0	18	217
80代以上	95	47	6	4	0	14	166



・講座等参加者アンケート

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である	無回答等	合計
9歳以下	10	0	0	0	0	0	10
10代	6	0	1	0	0	0	7
20代	5	0	0	0	0	0	5
30代	31	3	0	0	0	1	35
40代	34	6	2	0	0	0	42
50代	41	3	0	0	0	0	44
60代	61	11	0	0	0	4	76
70代	41	12	2	0	0	4	59
80代以上	27	3	0	0	0	1	31



・イベント参加者アンケート

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である	無回答等	合計
9歳以下	54	8	1	0	0	1	64
10代	37	5	0	0	0	0	42
20代	2	1	0	0	0	0	3
30代	65	20	2	2	0	0	89
40代	112	33	6	0	0	0	151
50代	17	5	2	0	0	0	24
60代	11	5	1	0	0	0	17
70代	24	12	1	1	0	1	39
80代以上	17	4	1	0	0	1	23



○講座等参加者アンケート及びイベント参加者アンケートにおいて、講座等やイベントの開催が、参加者の今後の施設利用につながるかを尋ねた質問では、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」との回答を合わせた割合は、それぞれ 97.2%、94.7%であった。

② 意見交換会、アンケート自由記述から

○コミュニティふらっとの運営事業者からは、「ラウンジは、乳幼児親子から高齢者まで幅広い世代の方に利用されている」、「高齢者専用施設であるゆうゆう館から、多世代型施設であるコミュニティふらっとへ変わったことにより、高齢者以外の利用者が利用しやすくなり、施設が有効活用されていると感じる」との意見が聴かれた。

○一方、「乳幼児親子向けのスペースが不足している」という意見も聴かれた。

○施設の利用者からは、「どの世代も利用しやすく、子どもから高齢者まで目的にあわせて利用できる」、「多世代型施設のため、子どもたちや家族ぐるみで利用できる」、「ゆうゆう館や区民集会所は、古くから使ってる人が多いイメージで入りづらい。コミュニティふらっとは、比較的オープンなイメージがあり、入りやすかった」、「ゆうゆう館の談話室には、60歳以上の人しか入れないので、50代の友達と話したり、待ちあわせをすることができなかったが、コミュニティふらっとでは、気軽に待ちあわせて話ができる」という意見が聴かれた。

○一方、「高齢者にとって利用しやすい施設かという点については疑問がある」、「若い方は来ないので努力が必要」、「机や椅子が大人仕様のため、子どもは使いづらい」という意見も聴かれた。

③ 分析

○コミュニティふらっと利用者アンケートにおいて、「どの世代でも利用しやすい」との回答の割合は8割以上と高く、利用者からは全ての世代が利用しやすい施設であると認識されていると言える。

○コミュニティふらっと利用者アンケートにおいては、60代以上の割合が高かったが、これは、これまで整備してきたコミュニティふらっと5施設のうち4施設がゆうゆう館を機能継承しており、ゆうゆう館からコミュニティふらっとへ活動場所を移行した高齢者団体が一定数いることが要因として考えられる。一方、講座等やイベントに関しては、多世代の利用や交流につながるよう、幅広い世代が参加できる内容を企画していることから、コミュニティふらっと利用者アンケートと比較し、60代以上の割合が低く（50代以下の割合が高く）なったと考えられる。

○コミュニティふらっと利用者アンケート、講座等参加者アンケート及びイベント参加者アンケートにおける満足度は、いずれの世代も概ね8割以上となっており、各場面における利用者の満足度は、どの世代も高いと言える。

○講座等やイベントの開催が、参加者の今後の施設利用につながるとの回答の割合は95%程度と高かったことから、講座等やイベントを開催することにより、多世代が施設を継続的に利用することにつながる可能性があると言える。

○「ゆうゆう館や区民集会所より気軽に使えた」という意見が聴かれた一方、「特定の世代にとって使いづらい場面がある」という意見も寄せられており、なお課題もあると言える。

視点2 多世代の交流について

① アンケートから

- コミュニティふらっと利用者アンケートにおいて、「世代を超えて交流・つながりが生まれる」という点について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」との回答を合わせた割合は51.7%であった。なお、「どの世代でも利用しやすい」、「気軽に利用できる」の2点について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」との回答を合わせた割合は、それぞれ81.1%、79.8%であった。
- 講座等参加者アンケート及びイベント参加者アンケートにおいて、講座等やイベントにより多世代交流が進むかという点について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」との回答を合わせた割合は、それぞれ79.1%、84.0%であった。

② 意見交換会、アンケート自由記述から

- コミュニティふらっとの運営事業者からは、講座等やイベントの中で「高齢者団体の方が子どもに折り紙を教える」、「常連の高齢者が小学生に教える」という事例の報告があった。
- 一方、「多世代交流が全くないわけではないが、まだ十分ではなく、更なる工夫が必要」という意見も聴かれた。
- 施設の利用者からは、「他の世代と交流ができるのは願ってもいないことである」、「人と交流することでリフレッシュできる」、「地域の方と交流が持てる」、「イベントを通して知り合いができた」という意見が聴かれた。
- 一方、「特定の年代で完結してしまっている」、「生活時間帯が異なるため交流は難しい」、「それぞれのグループでの活動になっている」、「イベント時には、多世代が交流している状況は見受けられるが、日常では見たことがない」という意見も聴かれた。

③ 分析

- 講座等参加者アンケート及びイベント参加者アンケートにおいて、講座等やイベントにより多世代交流が進むとの回答の割合が8割程度であったことから、講座等やイベントの開催が多世代交流に一定の効果があると評価されていると言える。
- コミュニティふらっと利用者アンケートにおいて、「世代を超えて交流・つながりが生まれる」との回答の割合が、「どの世代でも利用しやすい」、「気軽に利用できる」との回答の割合に比べ低かった。これは、世代を超えた交流・つながりは、単に施設を利用するだけでは生まれず、交流につながるような一定のしかけが必要であるとともに、会う回数を重ねるなど、一定の時間も必要であることが要因として考えられる。
- 多世代交流について肯定的な意見が聴かれたほか、実際に、多世代が交流している場面も確認された。一方、多世代交流のための取組については、更なる工夫の必要性や交流の課題に関する意見も聴かれたことから、イベントや講座等の充実、身近な地域における継続的な交流につなげるための仕組みの検討などが必要である。

視点3 施設の特徴などを踏まえた運営上の創意工夫について

① 意見交換会、事業実施報告書等から

○コミュニティふらっと阿佐谷

- ・阿佐ヶ谷駅から近い立地を生かし、夜の時間帯に、仕事帰りの社会人向けのピラティスの講座を開設し、好評を得ている。(24回開催、延べ260人が参加。令和4年度実績)
- ・高齢者団体登録数が約90団体と、他のコミュニティふらっとより多いことから、団体登録の更新時に早めに掲示や配布物でお知らせする、手続きが終わっていない団体に電話で連絡するなど丁寧な対応を心掛けている。
- ・多世代交流イベントにおいて、地元の町会や青少年育成委員会、児童館にも協力いただきブースを出展しているほか、地元の中・高校生に当日のボランティアをお願いしている。
- ・元々ゆうゆう館であったことから、一般の利用者が利用できる施設であることを施設入口近くに掲示するなどの工夫を行っている。
- ・子どもが小さい、遠くて行けないなど、普段映画館に行けない方からの要望を受け、映画鑑賞会を開催した事例がある。

○コミュニティふらっと東原

- ・東原児童館を転用した経緯もあり、地域のボランティアとも協力しながら、乳幼児親子向けには身体測定や子育て相談、親子ヨガなど、小学生向けには居場所づくりに係る事業などを実施しており、自主運営事業の12歳以下の参加者数も、他のコミュニティふらっとと比較して多い。(乳幼児(6歳以下)親子833組、7～12歳2,621人。令和4年度実績)
- ・講座等参加者アンケートにおいて、回答いただいた30組全ての乳幼児親子が講座等に「満足」又は「どちらかといえば満足」と回答した。また、参加者からは、「子どもが楽しそうであった」、「子育て世代との交流もできる」、「親がリラックスできた」などの肯定的な意見が聴かれた。
- ・講座等や多世代交流イベントは、地域のボランティアの方にも協力いただいて実施しており、高齢者が子どもにコマなどの昔遊びを教えるなど、地域の中でのつながり作りに資するような取組を行っている。
- ・多世代交流イベントにおいて、防災クイズラリーを実施し、施設内のみならず施設周辺を巡り、クイズに答えながら危険な場所がないか参加者に考えてもらうなど、有事の際などに備え、地域の状況をよく知ることにもつながる取組を行っている。

○コミュニティふらっと馬橋

- ・杉並第六小学校に近い立地を踏まえ、小学校低学年を対象とした英語の事業や夏休みの自由研究にもつながるような事業を実施しているほか、小学校と連携し、不登校等の児童が希望した際に、自主運営事業や本施設で活動している高齢者団体の活動に参加ができるよう案内している。また、多世代交流イベントにおいて広い小学校の施設も借り、施設で活動している団体の発表の場を設ける、小学生と一緒に阿波踊りをおどるなどの催しも実施している。
- ・中学生の居場所づくりの一環として、夜間の時間帯に、大学生が中学生に勉強を教え

る事業を実施し、塾に通えない中学生の支援を行っているほか、その他の中学生の居場所としても活用できるようにしている。

- ・乳幼児を連れて方からの要望を受け、湯沸室にパーテーションを置き、授乳スペースとして活用できるようにした。
- ・パソコン教室を開催した際、参加者からスマートフォンの使い方についての講座も開催して欲しいとの要望を受け、新たに講座を設けた。

○コミュニティふらっと永福

- ・コミュニティふらっと永福を利用する中・高校生 61 人に対しアンケートを実施したところ、施設の利用頻度について、約半数が「週 1 回以上」と定期的に施設を利用しており、「ティーンズタイム」の満足度は約 75%であった。また、利用者からは、「家では集中できないが、ここでは勉強に集中できる」、「友達と一緒に勉強ができる」、「飲食ができるのはよい」などの意見が聴かれた。
- ・「ティーンズタイム」を利用している中・高校生に対し、施設の職員が声掛けを行うなどコミュニケーションの取りやすい環境づくりに取り組んでおり、「この施設で知り合った」、「友達の友達でこの施設に来て友達になった」との声が聴かれている。
- ・永福図書館との複合施設であることを活かし、多世代交流イベントにおいて、図書館で本を借りると輪投げに挑戦できるコーナーを設けたところ、「子どもに図書館に行く機会を提供できありがたかった」という意見が聴かれた。また、図書館利用カードの新規登録者に多世代交流イベントにおけるプレゼント引換券を渡し、コミュニティふらっとを利用してもらうきっかけ作りに取り組んでいる。
- ・併設している永福北保育園に加え、近隣の 2 つの保育園の園児が描いた絵をラウンジに掲示したほか、近隣の体育施設や集会施設と合同でデジタルスタンプラリーを実施し、各施設を利用するきっかけ作りに取り組むなど、近隣の施設と連携しながら運営を行っている。

○コミュニティふらっと成田

- ・比較的広くて開放的なラウンジを活かし、施設で活動している団体のアート作品などを展示し、出展者のモチベーションアップにもつながっているほか、見学者からも好評を得ている。
- ・施設で楽器の演奏やコーラスなどの活動を行っている団体を複数団体集めて音楽会を開くことにより、練習の成果を披露する場を設けるとともに、活動団体間の交流にもつながる取組を行った。
- ・併設している成田保育園からの要望を受け、乳幼児親子向けのイベントを週末や休日にも開催することとした。また、成田保育園を利用している保護者が、本施設で開催したイベントをきっかけに知り合った事例や、保護者同士がラウンジで談笑している姿も確認されている。
- ・本施設を運営している事業者は、幅広い世代の方が楽しむことができるダーツに力を入れているが、本施設でのダーツの事業に参加した障害者の中から指導員のボランティアが生まれ、ご本人の活躍の場を広げることに繋がった事例が確認されている。

○区及び各コミュニティふらっとの運営事業者による「コミュニティふらっと運営事業者連絡会」を定期的に開催し、各施設での事業の実施状況や課題などについて情報共有や

意見交換を行うことにより、各事業者の工夫などを共有し、よりよい施設づくりに努めている。また、多世代交流イベントにおいては、事業者が他のコミュニティふらっとのイベントに参加するなど相互に協力しながら実施している事例も確認されている。

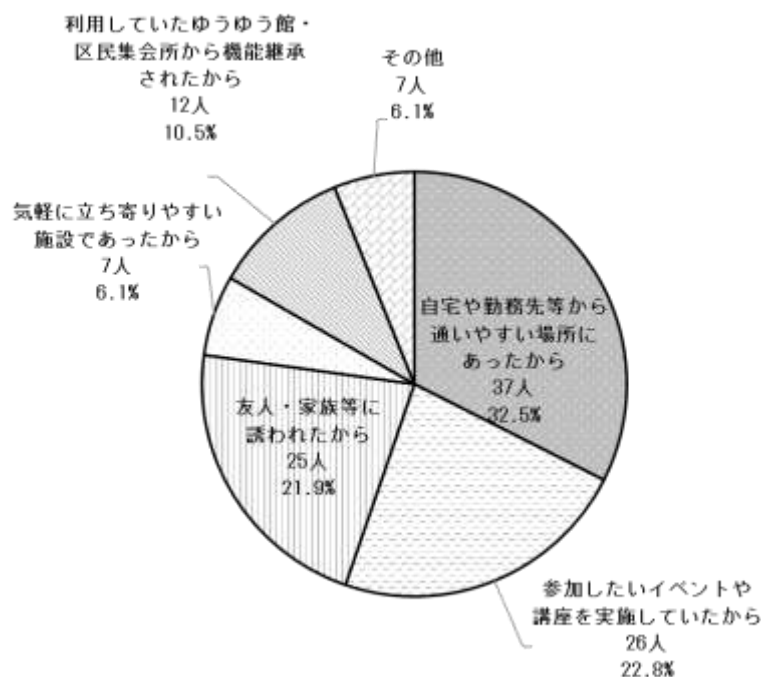
② 分析

○再編前の施設の形態や立地、設え、利用状況、利用者からの声などに加え、多世代の利用・交流という観点も踏まえたうえで、各施設で創意工夫しながらより魅力的な施設となるよう、自主運営事業や多世代交流イベントの実施も含めた施設の運営を行っていることが確認できた。また、地域住民の方や近隣施設との連携も行いながら、「身近な地域におけるコミュニティの形成に資する」というコミュニティふらっとの設置目的にもつながるような取組も行われていることが確認できた。

視点4 コミュニティふらっとの設置目的の理解等について

① アンケートから

- コミュニティふらっと利用者アンケート、講座等参加者アンケート及びイベント参加者アンケートにおいて、コミュニティふらっとの利用等を通して身近な地域における人とのつながりが育まれるか（コミュニティが形成されるか）について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」との回答を合わせた割合は、それぞれ 68.4%、83.4%、86.7%であった。
- コミュニティふらっと利用者、講座等参加者及びイベント参加者の住所が、各コミュニティふらっとの半径約 700m以内であった割合は、それぞれ 56.9%、54.8%、59.0%であった。
- これまで地域区民センター、区民集会所、区民会館を利用したことがなかった者に対して、コミュニティふらっとを利用するようになった一番の理由を尋ねた質問において、「自宅や勤務先等から通いやすい場所にあったから」との回答が最も多く、32.5%であった。（有回答=114人、無回答=18人）



② 意見交換会、アンケート自由記述から

- 「誰もが身近な地域で気軽に利用でき、世代を超えて交流・つながりが生まれる施設」というコミュニティふらっとの考え方について、「一部の世代だけでなく多世代利用できるのは平等性の観点からもよい」、「災害等への対策等を考えても世代を超えたつながりは大事」という意見が聴かれた。
- 一方、「大人と子どもは別々にした方が落ち着くしのんびりできる」、「あまり積極的に他の世代との交流は望んでいない」という意見も聴かれた。
- 地域における「居場所」という観点からは、「区民の皆さんの居場所、安心して寄れる所、老後ひとりぼっちの方もたよれる施設であってほしい」、「社会・生活が変化している中で、周りに相談でき、コミュニケーションがとれる場は必要」、「気軽に立ち寄れる空間は生活していく上で他者とのコミュニティとして必要不可欠。核家族化や友人達との交流が希薄化していくなかで絶対に残していくべき空間だ」、「年配者としては身近な所でのコミュニティの場は大変重要」、「誰でも気軽に利用できる場所が増えることは良い。高齢者が益々ふえる時代に、元気で自分の体は自分で守ることが大切」、「こういう場所が増えるのは大賛成。コミュニティスペースが充実するのは良い」という意見が聴かれた。

③ 分析

- コミュニティふらっとという施設の考え方については、肯定的な意見が聴かれたとともに、コミュニティふらっとの利用等を通して、身近な地域におけるコミュニティが形成されるとの回答の割合が概ね7割以上と高く、コミュニティ形成という観点からは一定の評価を得ていると言える。
- 一方、多世代の利用や交流など、コミュニティふらっとのコンセプトについて否定的な意見も聴かれた。
- コミュニティふらっと利用者、講座等参加者、イベント参加者の住所について、施設から半径約700mである割合が半数を超えたが、残りはそれ以上離れたところであった。これは、現時点では区内全域においてコミュニティふらっとが満遍なく整備されているわけではないため、活動に適したコミュニティふらっとがあれば、多少離れていても利用する事例があるからと考えられる。
- これまで集会施設を利用していない者が、コミュニティふらっとを利用するようになった理由を尋ねた質問の結果から、身近な場所に気軽に利用できる施設がある、という点は、施設を利用する際の大きな動機になると言える。
- 地域において、安心して、気軽に立ち寄れる場所、コミュニケーションが図れる場所が必要との意見が多く聴かれたことから、利用者からは、そのような「居場所」が地域において重要であると考えられていると言える。

検証項目2 施設の有効活用について

視点1 施設の有効活用について

これまでに整備してきたコミュニティふらっと5施設のうち、単独のゆうゆう館を転用して整備した唯一の事例であり、再編の前後で利用状況の比較が可能であることから、コミュニティふらっと阿佐谷の事例について分析を行う。なお、コロナ禍で利用が制限されていた状況があることから、ゆうゆう阿佐谷館の令和元年度の実績と、コミュニティふらっと阿佐谷の令和4年度の実績を比較することとする。

① 利用状況から

○一般利用数（ゆうゆう館における目的外利用数）は、16.9%増加した。

（1,746件→2,041件）

※ゆうゆう館においては、目的外使用として地域団体など一般の利用者の利用を認めていた。

○施設全体の利用数の合計は、6.5%減少した。（5,542件→5,179件）

② 分析

○一般利用数が増加した点については、高齢者専用施設であるゆうゆう館から、多世代型施設であるコミュニティふらっとに変わったことにより、新たな利用者が生まれたこと、一般利用者がより早い時期から利用の申込が可能となったことが要因として考えられる。

○施設全体の利用数の合計が減少している点については、利用数に占める割合が高い「高齢者団体の利用数」が減少したこと、その具体的な要因としては、コロナ禍を経ていること、ゆうゆう館時代と比較し、高齢者団体の登録数が少ないことが要因として考えられる。

○なお、区民集会所や区民会館では、施設としての自主運営事業やイベントは開催していないため、それらの施設との比較においては、施設の有効活用がされていると言える。

検証項目3 地域コミュニティ施設の再編について

視点1 地域コミュニティ施設の再編に対する理解について

① アンケートから

○集会施設利用者アンケートで、区民集会所や区民会館、ゆうゆう館等をコミュニティふらっとへ再編していく取組の認知度について尋ねた質問において、「よく知っていた」、「なんとなく知っていた」との回答を合わせた割合は30%であった。一方、「あまり知らなかった」、「全く知らなかった」との回答を合わせた割合は70%であった。

○区民集会所等をコミュニティふらっとへ再編していく取組について、「賛成である」、「どちらかといえば賛成である」との回答を合わせた割合は40.5%であった。一方、「どちらともいえない」との回答が37.0%、「どちらかといえば反対である」、「反対である」との回答を合わせた割合が22.5%であった。

○区民集会所等をコミュニティふらっとへ再編していく取組についての見解を尋ねた質問において、「賛成である」、「どちらかといえば賛成である」との回答を合わせた割合が最も高かった施設（72.2%）と最も低かった施設（28.2%）では開きがあった。

② 意見交換会、アンケート自由記述から

- 「年齢などに関係なく誰もが気軽に利用できる施設が望ましい」、「世代を超えた交流ができる」という意見が聴かれた。
- 一方、「再編の必要性を感じない」「多世代の交流は地域区民センターでもすでにできていると思う」、「高齢者団体優先枠が設定されると、一般利用者は予約が取りにくくなるのではないか」、「コミュニティふらっとの利点がよく分からない」、「コミュニティふらっとが具体的にどのように運用されるのかイメージできていない」という意見も聴かれた。

③ 分析

- 区民集会所等をコミュニティふらっとへ再編していく取組に対する認知度は30%であり、低かったと言える。
- 区民集会所等をコミュニティふらっとへ再編していく取組について、賛成の割合と、どちらともいえないとの回答の割合が同程度であったことから、再編の背景や必要性などについて十分に理解を得られていなかったと言える。

視点2 これまでの進め方について

① アンケートから

- コミュニティふらっと利用者アンケートにおいて、「コミュニティふらっと」の整備等についてこれまで区が行ってきた利用者等の意見を伺う取組について「十分行われていたと思う」、「ある程度行われていたと思う」との回答を合わせた割合は41.6%であった。一方、「どちらともいえない」との回答が39.7%、「やや不十分だったと思う」、「不十分だったと思う」との回答を合わせた割合が18.7%であった。

② 意見交換会、アンケート自由記述から

- 「再編の取組自体を知らなかった」、「計画の前の段階で説明をすべき」、「今までの説明会は決まっていることを報告するだけで住民の話聞く姿勢がなかった」という意見が聴かれた。
- 意見交換会の参加者からは、「今まではこのような機会がなかったため、今日は区の職員と直接話ができよかった」という声も聴かれた。

③ 分析

- これまで区が行ってきた利用者等の意見を伺う取組について、行われていたとの回答の割合と、どちらともいえないとの回答の割合が同程度であり、また、説明のタイミングや説明会での区の姿勢に関する指摘のほか、再編の取組自体を知らないとの意見もあったことから、これまでの取組が必ずしも十分であったとは言えない。

エ 検証結果

「ウ 情報の整理・分析」を踏まえた検証結果は以下のとおりである。

検証項目1 コミュニティふらっとの設置目的について

視点1 全ての世代の利用について

- コミュニティふらっとは、全ての世代が利用しやすい施設であることが総じて認識されている。
- 講座等やイベントも含めた利用者の満足度は、子どもから高齢者までどの世代も高かったことから、全ての世代の利用は進んでおり、今後も進んでいくと言える。
- 日常的な利用、講座等、イベントと、利用の場面により年齢に偏りがあり、また、特定の世代には使いづらいとの意見もあったため、今後は、各場面でより幅広い世代が利用できるよう、ラウンジを利用者の「居場所」としてさらに活用していくことも含め、運営方法や事業内容などを検討していく必要がある。

視点2 多世代の交流について

- 多世代交流のための講座等や多世代交流イベントの実施、多世代交流という考え方については一定程度評価されており、また、実際に交流が生まれている事例も確認できたため、「地域共生社会」の実現に資する施設となるよう、引き続きこうした取組を進めていくことが適切である。
- 一方、「世代を超えて交流・つながりが生まれる」との回答の割合が相対的に低く、また、交流が生まれていても一過性のものになっているなどの意見もあることから、こうした点の解消を含め、施設運営や事業内容に関して、更なる工夫が必要である。
- 多世代の利用については、一定程度定着し、認知もされてきたため、今後は、利用から交流に発展させていけるよう、運営事業者とも連携・協力しながら、今後の取組の充実に向けて検討していく必要がある。

視点3 施設の特徴などを踏まえた運営上の創意工夫について

- 自主運営事業や多世代交流イベントの工夫、地域住民や近隣施設との連携、利用者からの意見を受けた対応など、各施設において様々な視点から創意工夫が行われていると言える。今後も更に幅広い世代の方に利用される施設となるよう、区民の意見を聴く仕組みづくりの検討など、引き続き運営事業者と協力していく。

視点4 コミュニティふらっとの設置目的の理解等について

- 各アンケートにおいて、コミュニティふらっとの利用を通じてコミュニティが形成されるとの回答の割合が高く、また、「身近な場所に利用できる施設が存在していること」がその施設の利用につながることも判明したことから、コミュニティふらっとには一定の意義があると言える。
- 一方、コミュニティふらっとのコンセプトに対して否定的な意見も聴かれたように、施設のあり方については様々な考えがあることから、コミュニティふらっとの意義などについて丁寧に説明していく必要がある。

- 地域住民などが気軽に立ち寄り、人とコミュニケーションを取れるなど、「居場所」として活用できる施設が求められている。

検証項目2 施設の有効活用について

視点1 施設の有効活用について

- コミュニティふらっと阿佐谷の再編整備において、ゆうゆう阿佐谷館として運営していた年度と比較し、一般利用数は増加したことから、施設が幅広い世代に有効活用されたと言える。一方、施設全体の利用数が減少しており、コロナ禍の影響も加味する必要があるが、この点では施設の有効活用が図られていないとも考えられる。
- 今後は、コミュニティふらっとも含めた集会施設全体で行う予定としている利用促進策の検討の状況も踏まえつつ、運営事業者とも対応を考えていく必要がある。

検証項目3 地域コミュニティ施設の再編について

視点1 地域コミュニティ施設の再編に対する理解について

- 区民集会所等をコミュニティふらっとへ再編していく取組に対する認知度は総じて低く、また、再編の背景や必要性などについて十分に理解を得られていなかったことも課題である。
- 多世代利用や多世代交流について、区民集会所や区民会館の利用者からも肯定的な意見が聴かれた一方、再編の必要性に関する疑問や再編後の利用についての不安の声も寄せられており、今後の取組に当たっては、事前に丁寧な情報提供を行う必要がある。
- 施設によって、利用者の再編の取組に対する賛否の見解が大きく異なることから、施設再編の取組について周知の促進を図るとともに、施設ごとに対応を検討していくことも必要であると言える。

視点2 これまでの進め方について

- これまで区が行ってきた利用者等の意見を伺う取組について、周知が不足していた、住民の意見を十分聴けていなかったなどの課題があったことを確認した。
- 今後は、情報提供や意見聴取の時期、方法などについて検討するとともに、利用者や地域と対話をしながら共に対応を考えていくなど、再編整備の計画づくりの段階から進め方を見直す必要がある。

<まとめ>

- ※「地域コミュニティ施設」と「ゆうゆう館の再編」については、密接に関係しているため、「ゆうゆう館再編」の箇所にまとめて記載することとする。